



かいわ 海和 洵

名取教室 教室長

成績向上を目指すだけでなく、人間力を育む学習塾「ハイパーニング」。名取教室長を務める海和さんの言葉から、独自の教育理念と、数字で測れない能力を伸ばすカリキュラムの全貌に迫ります。

💡 勉強の枠を超えて 人としての根幹を 育む理念

教室管理や保護者との面談業務をこなしながら、自らも指導に入る海和さん。その視線は、点数アップだけではなく社会での姿へ注がれています。

「勉強を教える場所ではあるけれど、勉強だけができればいいわけではない。そこは全社員の共通認識だと思っています」。

海和さんは理念の根幹をそう語ります。背景には、玄関の扉が開いて「こんにちは」と声をかけても挨拶せずにスタスタと教室

に入っていく生徒への危機感があります。どれだけ優秀でテストの点数が良く、いい高校や大学に進めても、コミュニケーション能力や主体性がなければ社会では生きていけません。その厳しさを自分自身が痛感してきたからこそ、人としての振る舞いを大切にします。

💡 主体性を引き出す 2つのスクール

人間力を具体的なシステムへ落とし込んだのが、去年の4月から導入された小学生向けの2つのコース。ロボットチャスクールとスコップ・スクール。どちらも社会で役に立つ、数字で測れない非認知能力を育てる試みです。

海和さんは両コースを担当しています。スコップでは、月替わりのテーマで正解が無数にある授業を行います。授業の節々に考えたことを言語化する時間、絵やモノ

を作る時間、最後に発表する時間を必ず設けます。

「どこを工夫したのか」「なぜそう思うのか」と聞いても、子どもたちは「なんとなく」と答えがち。そこを掘り下げて理由を自分の言葉で紙に書かせ発表させます。ロボッチャスクールでは、ロボットの作り方やプログラミングパレットの使い方について最低限を教えた後は、子どもたちがどんなことをしたいかによって授業の進め方を変えます。「もっと実験を繰り返したい」という場合は納得いくまで実験させますし、「もっとロボットを改良したい」という場合は気が済むまで改良してもらい、自分だけのロボットを作ってもらう。こうした中で主体性や、やり抜く力が磨かれていくのです。

💡 手料理がつなぐ 生徒との絆

ハイパーラーニング最大の強みは、大手塾にない生徒との距離の近さにあります。象徴的なシー

ンが、テスト対策授業の日に実施される、講師陣による手作り料理の振る舞いです。授業後に「日曜日でも頑張ったね！お疲れ様！」と、勉強に励む子どもたちを労います。料理が得意な塾長のプロの力を借りつつ、熱々のお好み焼きや豚汁を振る舞うほか、講師がクレープ生地を焼き、生徒が各自でホイップやバナナなどをトッピングするパーティーも開催。「こんな楽しいイベントをやってくれる塾はハイパーだけだ」と、他塾に通う友達と比べて喜ぶ声が上がります。

記憶に残るイベントはそれだけではありません。中3の勉強合宿や、12月31日の夜9時に集まり元日の朝方5時から6時まで行う年越し勉強会も定例化しています。深夜まで勉強を続け、途中で神社へ初詣に出かけ、再び教室へ戻って朝まで机に向かいます。これらのイベントは、子どもたちの記憶に残る思い出を作ったあげたいという講師たちの熱い思いから続いています。

💡 多様な人生経験を 伝える異色な 講師たちの魅力

講師陣が生徒の心に深く入り込める理由は、多様なバックグラウンドにあります。社員講師は、塾講師一筋でやってきた先生はいないという異色の集団です。早坂塾長は元吉本の芸人でもあり元料理人でもあります。元銀行員の遠藤先生、俳優を目指し劇団にいた先生、沖縄出身で色々な経験を持つ先生、元スーパーで副店長だった先生など、個性豊かな顔ぶれが揃います。

授業中の何気ない雑談の中で、それぞれの講師が過去の失敗談や社会の仕組み、仕事のリアルな楽しさを子どもたちに語りかけます。名取教室を牽引する海和さんもまた、かつては地方銀行で働く行員でした。そこからなぜ、未経験の教育業界へ飛び込んだのでしょうか。

(後編に続く)

企業情報

設立年：2012年4月
年商（さくら株式会社）：12.8億円
年商（さくらグループ全体）：17.2億円
※ 2025年3月決算時点

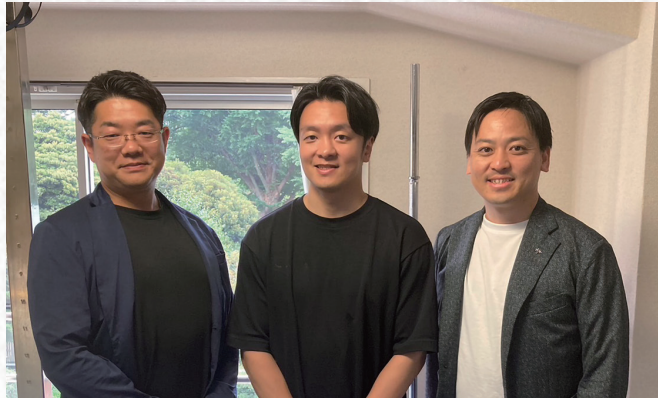


マインドフルネス

～心身を整えパフォーマンスを最大化～

心身の健康と社会的な健康が両立した「ウェルビーイング」の実現は、社員一人ひとりのパフォーマンス向上に欠かせません。当社では、新たな文化としてマインドフルネスを導入しました。この取り組みがどのような背景で始まり、どのような変化をもたらしているのか。実践者である小川さんの視点からお伝えします。

▼左からさくら株式会社 高橋社長・株式会社マインドフルネス 関根社長・さくら株式会社 小川



導入のきっかけ

高校時代の友人との縁から始まった導入

導入のきっかけは、私の高校時代の友人がマインドフルネスの普及を行う企業の代表を務めていたことでした。彼が掲げる「マインドフルネスを通じて精神疾患や社会問題を解決したい」という想いに賛同し、当社の代表である高橋さんに紹介したことが始まりです。2024年の春頃、共に対話を重ねる中で、社員の健康と社会貢献を同時に実現できるという確信を得て、正式に導入が決まりました。

▼マインドフルネス呼吸瞑想



実践している内容

社員みなで行う朝10分のプログラム

現在、毎朝9時の朝礼時にオンラインで社内の皆さんが参加し、約10分間のプログラムを実施しています。内容は、上半身をほぐす5分間のストレッチと、5分間の呼吸瞑想です。姿勢を整え、手のひらを上に向けて胸を開くことで、深い呼吸が可能な状態を作ります。私は個人的にもこのコミュニティに所属しており、社内での実施に加え、23時にも個人でルーティンとして取り入れています。

実感している効果

睡眠の質向上とストレスの低減

導入から約1年が経過し、私自身に大きな変化がありました。以前はひどい肩こりに悩まされていましたが、ストレッチと呼吸法を継続することで、今ではマッサージの必要を感じないほど体が軽くなりました。また、精神面でも大きなメリットを感じています。マインドフルネスは、日中の興奮状態にある交感神経を副交感神経へと切り替えるアプローチとして非常に有効です。これにより、入眠時のリラックス状態が促され、睡眠の質が飛躍的に向上しました。頭の中が整理されることで集中力が上がり、業務への向き合い方もより前向きに変化したと実感しています。



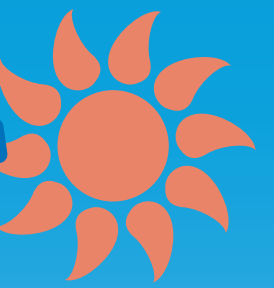
今後の取り組み

資格を活かした新たな社内交流

2026年3月、私と高橋さん、そして渡邊さんの3名でマインドフルネスの講師認定資格を取得しました。現在は、頭蓋骨へのアプローチを通じた施術も習得し、業務の合間に肩こりや疲労を感じている社員へ施術を行うことも。今後は、オンラインでの指導だけでなく、対面でのコミュニケーションを通じてマインドフルネスの輪を広げていきたいと考えています。社内はもちろん、社外の方々にもこの良さを体感していただくことで、より良いつながりのきっかけを作ってまいります。

死を招く...?!

「熱中症」を防げ!!



7月が近づき、そろそろ夏本番を迎えます。暑さに慣れていないこの時期は熱中症になりやすくなります！症状が深刻なときは命に関わることもあります。正しい知識があれば予防することができます。熱中症を知り、自分でできる熱中症対策を心がけましょう。

作業前、作業中には体調確認を!!

チェック項目

- ☐ 寝不足
- ☐ 朝食抜き
- ☐ 二日酔い
- ☐ 不慣れ
- ☐ 我慢

一つでも当てはまる項目があると熱中症を発症しやすくなります。

熱中症を防ぐには

直射日光により高温環境となる屋外作業などでは、熱中症を予防するために以下の事項を守りましょう！

作業環境の面から

- ・日除けや通風をよくするための設備を設置し、作業中は適宜散水する。
- ・水分、塩分の補給のためのスポーツドリンクや身体を冷やすことのできる氷、冷たいおしぼりなどの物品などを備え付ける。
- ・日陰などの涼しい場所に休憩場所を確保する。
- ・作業中の暑熱環境の変化が分かるよう、熱中指標計等によりWBGT測定を行う。

作業の面から

- ・十分な休憩時間や作業休止時間を確保する。
- ・作業着は吸湿性、通気性の良いもの、帽子は通気性の良いものを着用する。

健康の面から

- ・質の良い睡眠やバランスの良い食事により、丈夫な身体作りをする。
- ・健康診断結果などにより作業者の健康状態をあらかじめ把握しておく。
- ・作業開始前はもちろん、作業中も巡視などにより作業者の健康状態を確認する。

熱中症の種類

「熱中症」とは暑い環境で生じる健康障害の総称で、次のように分類されています。

熱射病

体温の上昇のため中枢機能に異常をきたした状態です。意識障害（応答が鈍い、言動がおかしい、意識がない）や、ショック状態になる場合もあります。

【特徴】

- ・体温が高い
- ・意識障害
- ・呼びかけや刺激への反応がにぶい
- ・言動が不自然
- ・ふらつく

熱けいれん

大量に汗をかき、水だけを補給して血液の塩分（ナトリウム）濃度が低下した時に、足、腕、腹部の筋肉に痛みを伴ったけいれんが起ります。

【特徴】

- ・筋肉痛
- ・手足がつる
- ・筋肉がけいれんする

熱虚脱

高温暴露が継続し、心拍増加が一定限度を超えた場合に起こります。

【特徴】

- ・全身倦怠
- ・脱力感
- ・めまい
- ・意識障害

熱疲労

大量に汗をかき、水分の補給が追いつかないと、身体が脱水状態になり熱疲労の症状がみられます。

【特徴】

- ・全身倦怠感
- ・悪心・嘔吐
- ・頭痛
- ・集中力や判断力の低下

熱中症になってしまったら

熱中症は早期の処置が大切です。少しでも異常が見られたら管理・監督者にすぐ知らせると同時に下記の手当てを行い、直ちに病院に連れて行き、医師の手当てを受けてください。

手当ての方法

- 涼しいところで安静にする。（安静中は一人にさせない。）
- 水やスポーツドリンクなどをとらせる。
- 体温の高いときは、衣服をゆるめて首やわきの下を冷やす。

